

(様式第 10)

医大病第 463 号
平成 27 年 10 月 2 日

北海道厚生局長 殿

北海道公立大学法人札幌医科大学
理事長 島本 和明

札幌医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第の規定に基づき、平成 26 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒060-8543 札幌市中央区南1条西17丁目
氏 名	北海道公立大学法人札幌医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

札幌医科大学附属病院

3 所在の場所

〒060-8543 札幌市中央区南1条西16丁目	電話(011) 611- 2111
-----------------------------	---------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有					
内科と組み合わせた診療科名等						
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
診療実績						

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科							有
外科と組み合わせた診療科名							
1 心臓血管外科	2	3	4	5	6	7	
8	9	10	11	12	13	14	
診療実績							

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科	②小児科	③整形外科	④脳神経外科	⑤皮膚科	⑥泌尿器科	⑦産婦人科
8産科	9婦人科	⑩眼科	⑪耳鼻咽喉科	⑫放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科	⑮麻酔科	⑯救急科				

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科							有
歯科と組み合わせた診療科名							
1 歯科口腔外科	2矯正歯科	3	4	5	6	7	
歯科の診療体制							

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 循環器科	2 神経内科	3 形成外科	4 リハビリテーション科	5 病理診断科	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
42床	床	6床	床	890床	938床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成27年 9月 1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	239人	316人	496.4人	看 護 補 助 者	99人	診 療 エ ッ ク ス 線 技 師	0人
歯 科 医 師	8人	19人	23.4人	理 学 療 法 士	23人	臨 床 検 査 技 師	56人
薬 剤 師	52人	0人	52人	作 業 療 法 士	5人	衛 生 検 査 技 師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視 能 訓 練 士	5人	そ の 他	0人
助 産 師	30人	2人	31.9人	義 肢 装 具 士	0人	あ ん 摩 マ ッ サ ー ジ 指 圧 師	0人
看 護 師	747人	67人	775.1人	臨 床 工 学 士	19人	医 療 社 会 事 業 従 事 者	0人
准 看 護 師	1人	2人	2.2人	栄 養 士	0人	そ の 他 の 技 術 員	8人
歯 科 衛 生 士	3人	1人	4人	歯 科 技 工 士	2人	事 務 職 員	130人
管 理 栄 養 士	6人	1人	7人	診 療 放 射 線 技 師	48人	そ の 他 の 職 員	36人

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従業者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成27年 6月 1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	22人	眼科専門医	12人
外科専門医	3人	耳鼻咽喉科専門医	18人
精神科専門医	3人	放射線科専門医	15人
小児科専門医	19人	脳神経外科専門医	16.4人
皮膚科専門医	9.1人	整形外科専門医	17人
泌尿器科専門医	12.8人	麻酔科専門医	20.3人
産婦人科専門医	14.2人	救急科専門医	13.5人
		合 計	212人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従業者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	725.0人	25.2人	750.2人
1日当たり平均外来患者数	1873.6人	92.8人	1966.4人
1日当たり平均調剤数	1,400.4剤		
必要医師数	184.3125人		
必要歯科医師数	9.0人		
必要薬剤師数	26.0人		
必要(准)看護師数	442.0人		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除し

た数を記入すること。

- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
			病 床 数		心 電 計	
集中治療室	273.1m ²	鉄筋コンクリート	9床		有	
			有		有	
			有		有	
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 103.8m ² [移動式の場合] 台数 台			病床数	5床	
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 204.9m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	163.1m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 生化学自動分析装置、免疫化学自動分析装置、精製水作製装置 など			
細菌検査室	50.4m ²	〃	(主な設備) 細菌同定用質量分析装置、安全キャビネット、感受性分析装置 など			
病理検査室	185.7m ²	〃	(主な設備) 凍結ブロック製作装置、自動染色装置、パラフィン包埋ブロック作製装置 など			
病理解剖室	52.3m ²	〃	(主な設備) 解剖台、無影灯、写真撮影装置 など			
研究室	1006.8m ²	〃	(主な設備) 遺伝子増幅装置、泳動像撮影装置、液体クロマトグラフィー装置 など			
講義室	619.8m ²	〃	室数 2 室		収容定員	544 人
図書室	2312.1m ²	〃	室数 3 室		蔵書数	227, 565冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算 定 期 間		平成26年4月1日～平成27年3月31日	
紹 介 率	70.3%	逆 紹 介 率	43.1%
算 出 根 拠 A: 紹 介 患 者 の 数			13,788 人
B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数			9,221 人
C: 救急用自動車によって搬入された患者の数			1,239 人
D: 初 診 の 患 者 の 数			21,377 人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾 患 名	取扱患者数	疾 患 名	取扱患者数
・ベーチェット病	74人	・膿疱性乾癬	6人
・多発性硬化症	100人	・広範脊柱管狭窄症	2人
・重症筋無力症	122人	・原発性胆汁性肝硬変	43人
・全身性エリテマトーデス	181人	・重症急性膵炎	0人
・スモン	0人	・特発性大腿骨頭壊死症	62人
・再生不良性貧血	26人	・混合性結合組織病	29人
・サルコイドーシス	78人	・原発性免疫不全症候群	2人
・筋萎縮性側索硬化症	27人	・特発性間質性肺炎	21人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	153人	・網膜色素変性症	27人
・特発性血小板減少性紫斑病	52人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	35人	・肺動脈性肺高血圧症	12人
・潰瘍性大腸炎	112人	・神経線維腫症	16人
・大動脈炎症候群	25人	・亜急性硬化性全脳炎	1人
・ビュルガー病	10人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0人
・天疱瘡	18人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	6人
・脊髄小脳変性症	32人	・ライソゾーム病	1人
・クローン病	48人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	7人	・脊髄性筋萎縮症	1人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	84人	・球脊髄性筋萎縮症	1人
・アミロイドーシス	26人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	15人
・後縦靭帯骨化症	78人	・肥大型心筋症	50人
・ハンチントン病	0人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウリス動脈輪閉塞症)	31人	・ミトコンドリア病	1人
・ウェゲナー肉芽腫症	9人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	1人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	47人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	11人	・黄色靭帯骨化症	1人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	1人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH 分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	65人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
特定機能病院入院基本料 ※一般:7対1	退院調整加算
特定機能病院入院基本料 ※結核:7対1	救急搬送患者地域連携紹介加算
特定機能病院入院基本料 ※精神:10対1	総合評価加算
臨床研修病院入院診療加算※基幹型(医科)	呼吸ケアチーム加算
臨床研修病院入院診療加算※単独又は管理(歯科)	データ提出加算1
救急医療管理加算・乳幼児救急医療管理加算	データ提出加算2
超急性期脳卒中加算	救命救急入院料1
妊産婦緊急搬送入院加算	救命救急入院料4
診療録管理体制加算2	特定集中治療室管理料1
急性期看護補助体制加算50対1	新生児特定集中治療室管理料1
療養環境加算	新生児治療回復室入院医療管理料
重症者等療養環境特別加算	小児入院医療管理料2(加算あり)
無菌治療室管理加算1	地域歯科診療支援病院歯科初診料
無菌治療室管理加算2	歯科外来診療環境体制加算
緩和ケア診療加算	歯科診療特別対応連携加算
精神科身体合併症管理加算	地域歯科診療支援病院入院加算
精神科リエゾンチーム加算	・
重度アルコール依存症管理加算	・
がん診療連携拠点病院加算	・
栄養サポートチーム加算	・
医療安全対策加算1	・
感染防止対策加算1・感染防止対策地域連携加算	・
患者サポート体制充実加算	・
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
ハイリスク妊娠管理加算	・
ハイリスク分娩管理加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
植込型除細動器移行期加算	時間内歩行試験
高度難聴指導管理料	ヘッドアップティルト試験
外来リハビリテーション診療料	皮下連続式グルコース測定
外来放射線照射診療料	長期継続頭蓋内脳波検査
ニコチン依存症管理料	神経学的検査
糖尿病合併症管理料	補聴器適合検査
がん性疼痛緩和指導管理料1,2	小児食物アレルギー負荷検査
がん患者指導管理料1	内服・点滴誘発試験
がん患者指導管理料2	センチネルリンパ節生検1併用法
がん患者指導管理料3	CT透視下気管支鏡検査加算
移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	画像診断管理加算1(医科のみ、歯科はなし)
糖尿病透析予防指導管理料	遠隔画像診断
がん治療連携計画策定料1,2	ポジトロン断層撮影・コンピューター断層複合撮影
がん治療連携管理料	CT撮影及びMRI撮影
肝炎インターフェロン治療計画料	冠動脈CT撮影加算
薬剤管理指導料	大腸CT撮影加算
医療機器安全管理料1	心臓MRI撮影加算
医療機器安全管理料2	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
持続血糖測定器加算	外来化学療法加算1
造血器腫瘍遺伝子検査	無菌製剤処理料
HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェタイプ判定)	心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
検体検査管理加算(Ⅳ)	脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
遺伝カウンセリング加算	運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡加算	呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
植込型心電図検査	がん患者リハビリテーション料
胎児心エコー法	集団コミュニケーション療法料

施設基準の種類	施設基準の種類
認知療法・認知行動療法2(1日につき)	経皮的中隔心筋焼灼術
精神科ショート・ケア	ペースメーカー移植術、ペースメーカー交換術
治療抵抗性統合失調症治療指導管理料	埋込型心電図記録計移植術及び埋込型心電図記録計摘出術
医療保護入院等診療料	両心室ペースメーカー移植術、両心室ペースメーカー交換術
エタノールの局所注入(甲状腺)	埋込型除細動器移植術、埋込型除細動器交換術
透析液水質確保加算	両室ベising機能付き埋込型除細動器移植術及び両室ベising機能付き埋込型除細動器交換術
一酸化窒素吸入法	大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
医科点数表第2章第10節手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術	補助人工心臓
悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	経皮的大動脈遮断術
組織拡張器による再建手術(乳房の場合)	ダメージコントロール手術
骨移植術(自家培養軟骨移植術)	胃瘻造設術
内視鏡下椎弓切除術、内視鏡下椎間板摘出(切除)術(後方切除に限る。)	腹腔鏡下肝切除術
脳刺激装置植込術、頭蓋内電極植込術、脳刺激装置交換術	生体部分肝移植術
脊髄刺激装置植込術、脊髄刺激装置交換術	腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
緑内障手術(インプラント挿入術プレートのあるもの)	同種死体腎移植術
人工内耳埋込術	生体腎移植術
植込型骨導補聴器移植術及び交換術	膀胱水圧拡張術
内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
乳がんセンチネルリンパ節加算1(併用法)	人工尿道括約筋植込・置換術
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る)
経皮的冠動脈形成術	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る)
経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	輸血管理料 I
経皮的冠動脈ステント留置術	自己生体組織接着剤作成術
経皮的大動脈弁置換術	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
経皮的カテーテル心筋焼灼術(磁気ナビゲーション加算)	内視鏡手術用支援機器加算

施設基準の種類	施設基準の種類
胃瘻造設時嚥下機能評価加算	
麻酔管理料Ⅰ	
麻酔管理料Ⅱ	
放射線治療専任加算	
外来放射線治療加算	
高エネルギー放射線治療	
強度変調放射線治療(IMRT)	
画像誘導放射線治療加算	
体外照射呼吸性移動対策加算	
直線加速器による定位放射線治療	
定位放射線治療呼吸性移動対策加算	
病理診断管理加算2	
歯科治療総合医療管理料	
歯科口腔リハビリテーション2	
上顎骨形成術、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合)(歯科)	
広範囲顎骨支持型装置埋入手術(1顎一連につき)	
クラウン・ブリッジ維持管理料	
CAD/CAM冠	
歯科技工加算	
歯科矯正診断料	
顎口腔機能診断料	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・HPV核酸検出	・
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	・
・CT透視下気管支鏡検査加算	・
・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術	・
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	48回
剖 検 の 状 況	剖検症例数 25例 / 剖検 16.30%

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
オール北海道先進医学・医療拠点形成	島本 和明	—	233,108,661	(補委) 文部科学省
がん診療ガイドライン普及促進とその効果に関する研究及び同ガイドライン事業の在り方に関する研究	平田 公一	消化器・総合、乳腺・内分泌外科学講座	20,000,000	(補委) 厚生労働省
強皮症・皮膚線維化疾患の診断基準・重症度分類・診療ガイドライン作成事業	高橋 裕樹	消化器・免疫・リウマチ内科学講座	100,000	(補委) 熊本大学
びまん性肺疾患に関する調査研究	高橋 弘毅	呼吸器・アレルギー内科学講座	500,000	(補委) 東邦大学
次世代シーケンシング・ゲノムワイド関連解析を用いたC型肝炎治療に伴う肝病態進展軽快、肝発癌に関わる宿主因子の解析	宮西 浩嗣	腫瘍・血液内科学講座	500,000	(補委) 北海道大学
慢性の痛み診療の基盤となる情報の集約とより高度な診療の為の医療システム構築に関する研究	山下 敏彦	整形外科科学講座	800,000	(補委) 愛知医科大学
小児成長障害におけるワカメ程度の開発に関する研究-学校保健における思春期やせの早期発見システム構築、および発症要因と予後因子の抽出に向けて-	須見 よし乃	小児科学講座	100,000	(補委) 東京都立小児総合医療センター
特発性大腿骨頭壊死症の疫学調査・診断基準・重症度分類の改訂と診療ガイドライン策定を目指した大規模多施設研究	名越 智	生体工学・運動器治療開発講座	120,000	(補委) 大阪大学
有機リン中毒性痙攣に対するアトロピンおよびプラリドキシムの治療的効果の実験的検証	成松 英智	救急医学講座	600,000	(補委) 文部科学省
ケロイドにおけるMFAP5の機能解析と新規治療薬の開発	池田 佳奈枝	形成外科学	1,200,000	(補委) 文部科学省
口腔のがん幹細胞を標的とした新規がんワクチン開発	平塚 博義	口腔外科学講座	900,000	(補委) 文部科学省
子宮頸癌への細胞障害性Tリンパ球を介した新規ペプチドワクチン療法の開発と臨床応用	斉藤 豪	産婦人科学講座	1,400,000	(補委) 文部科学省
ヒト鼻粘膜上皮を用いた呼吸器ウイルス感染に対する新規治療戦略の検討	大國 毅	耳鼻咽喉科学講座	1,300,000	(補委) 文部科学省
ヒト口蓋扁桃におけるインフラマソーム活性化機構の解析	高野 賢一	耳鼻咽喉科学講座	1,900,000	(補委) 文部科学省
ヒト鼻粘膜上皮における新規drug delivery systemの構築	野村 一颯	耳鼻咽喉科学講座	1,300,000	(補委) 文部科学省
唾液腺上皮および線維芽細胞に着目したIgG4関連疾患の病態解析	阿部 亜由美	耳鼻咽喉科学講座	1,100,000	(補委) 文部科学省
フリーラジカルおよび酸化的DNA損傷修復遺伝子MUTYHを介した肝発癌機序の解明	宮西 浩嗣	腫瘍・血液内科学講座	600,000	(補委) 文部科学省
急性骨髄性白血病に対する新規ミサイル療法の開発	瀧本 理修	腫瘍・血液内科学講座	500,000	(補委) 文部科学省
ナローバンドUVBによる制御性T細胞の誘導を介したGVHDに対する新規治療の開発	佐藤 勉	腫瘍・血液内科学講座	1,500,000	(補委) 文部科学省
MDS進展における酸化的DNA傷害の意義とその修復を目論んだ鉄キレート療法の確立	小船 雅義	腫瘍・血液内科学講座	500,000	(補委) 文部科学省
新生内膜における小胞体ストレスと脂肪酸結合タンパクの関わり方の検討	石村 周太郎	循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座	2,200,000	(補委) 文部科学省
ヒト小型肝幹細胞移植の臨床応用に向けた基盤的臨床前研究	平田 公一	消化器・総合、乳腺・内分泌外科学講座	4,800,000	(補委) 文部科学省
膵がんに対するがん幹細胞標的ペプチドワクチン療法の開発	平田 公一	消化器・総合、乳腺・内分泌外科学講座	900,000	(補委) 文部科学省
炎症発癌に対する間葉系幹細胞のchemoprevention機構の解明	本谷 雅代	消化器・免疫・リウマチ内科学講座	900,000	(補委) 文部科学省
早期大腸腫瘍内のゲノム不均一性からアプローチする大腸がん起源の系統解析	山本 英一郎	消化器・免疫・リウマチ内科学講座	1,600,000	(補委) 文部科学省
表在型バレット腺癌のncRNA網羅的解析と食道洗浄廃液による超早期分子診断の検討	五十嵐 央祥	消化器・免疫・リウマチ内科学講座	1,500,000	(補委) 文部科学省
広汎性発達障害におけるメタボリック症候群予測マーカーの探索	館農 勝	神経精神医学講座	1,500,000	(補委) 文部科学省
病院内の自殺事故の実態調査および病院管理者と医療者に対する自殺予防教育	河西 千秋	神経精神医学講座	1,400,000	(補委) 文部科学省
神経変性疾患モデルにおける神経免疫システムの解析と治療応用の検討	松村 晃寛	神経内科学講座	1,100,000	(補委) 文部科学省
慢性期脊髄損傷に対する骨髄間葉系幹細胞移植による革新的治療法の開発	森田 智慶	整形外科科学講座	1,500,000	(補委) 文部科学省
骨髄間葉系幹細胞移植によって誘導される虚血脳可塑性の基礎的解析	鈴木 淳平	脳神経外科学講座	1,300,000	(補委) 文部科学省
前立腺がん幹細胞の同定と特異的がんワクチン療法の樹立	舩森 直哉	泌尿器科学講座	1,000,000	(補委) 文部科学省

小計 32

筋層浸潤性膀胱癌の浸潤能に関わる遺伝子解析と新規治療法の開発	井上 隆太	泌尿器科学講座	1,600,000	補委	文部科学省
機能的アッセイによる悪性黒色腫の腫瘍関連遺伝子の同定と解析	山下 利春	皮膚科学講座	1,100,000	補委	文部科学省
大腸癌幹細胞に対する免疫療法の開発	青山 智志	病理診断学	600,000	補委	文部科学省
分子生物学的マーカーを用いた前立腺癌放射線治療後の有害事象予測	染谷 正則	放射線医学講座	1,400,000	補委	文部科学省
早期に臨床応用が可能な放射線増感剤～PARP阻害剤の研究	堀 正和	放射線医学講座	1,400,000	補委	文部科学省
DNA修復蛋白の発現を利用した放射線治療効果の予測	長谷川 智一	放射線医学講座	1,600,000	補委	文部科学省
神経障害性疼痛における骨髄由来ミクログリアを介した治療戦略	新山 幸俊	麻酔科学講座	1,200,000	補委	文部科学省
デスフルランはなぜ術後認知機能低下を防ぐのか:高齢者の細胞骨格関連遺伝子の解析	山蔭 道明	麻酔科学講座	500,000	補委	文部科学省
慢性疼痛による不快情動に対する骨髄由来ミクログリアを介した新規治療戦略	澤田 敦史	麻酔科学講座	1,200,000	補委	文部科学省
母集団PK/PD解析に共変量として遺伝子多型を加味した小児用TCIの新規開発	名和 由布子	麻酔科学講座	900,000	補委	文部科学省
超音波造影剤による新たな神経ブロック法の確立	佐々木 英昭	麻酔科学講座	1,600,000	補委	文部科学省
高血圧性肥大心筋に対するデクスメトミジンの直接心筋保護効果	吉川 裕介	麻酔科学講座	1,300,000	補委	文部科学省
亜硝酸塩の心筋虚血誘発性不整脈に対する急性期抑制効果の機序解明	丸山 大介	麻酔科学講座	2,000,000	補委	文部科学省
骨髄間葉系幹細胞移植およびリハビリによって誘導される虚血脳の可塑性の基礎的解析	佐々木 雄一	リハビリテーション医学講座	1,300,000	補委	文部科学省
NADPHオキシターゼとスタニオカルシンを用いた乳癌の新規転移マーカーの開発	田中 真樹	臨床検査医学講座	700,000	補委	文部科学省
網羅的遺伝子発現解析に基づく食道癌化学放射線療法感受性予測法の開発	大沼 啓之	臨床検査医学講座	1,300,000	補委	文部科学省
肺サーファクタント蛋白質の新作用を応用した肺傷害・線維化制御	高橋 弘毅	呼吸器・アレルギー内科学講座	1,900,000	補委	文部科学省
口腔がん細胞の代謝調節を標的とした新規治療法の開発	荻 和弘	口腔外科学講座	1,900,000	補委	文部科学省
咽頭扁桃上皮細菌受容体の発現制御による小児急性中耳炎の新たな治療戦略	金泉 悦子	耳鼻咽喉科学講座	1,400,000	補委	文部科学省
III型インターフェロンサブタイプ相互干渉解析によるウイルス自然除去因子の探索	氷見 徹夫	耳鼻咽喉科学講座	1,700,000	補委	文部科学省
膵癌と間質に対するdual target therapyによる新規治療法の開発	石渡 裕俊	腫瘍・血液内科学講座	2,600,000	補委	文部科学省
グリコーゲン合成酵素キナーゼ3βのミトコンドリア移行抑制による心不全治療の開発	丹野 雅也	循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座	1,900,000	補委	文部科学省
心血管・代謝疾患における分泌型および異所性発現型脂肪酸結合タンパクの役割解明	古橋 真人	循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座	1,700,000	補委	文部科学省
過冷却プログラム凍結したヒト肝幹細胞を利用した再生外科治療の橋渡しの基礎研究	水口 徹	消化器・総合、乳腺・内分泌外科学講座	1,500,000	補委	文部科学省
骨髄-腸管連関の解明と治療応用	山下 健太郎	消化器・免疫・リウマチ内科学講座	1,800,000	補委	文部科学省
統合失調症の社会機能回復-細胞とオキシトシンを用いた"共感性/気遣い"の脳解析	鶴飼 渉	神経精神医学講座	1,400,000	補委	文部科学省
骨髄間葉系幹細胞の移植免疫における基礎解析	鰐淵 昌彦	脳神経外科学講座	800,000	補委	文部科学省
脳血流と脳波の簡易同時記録機器の開発	三國 信啓	脳神経外科学講座	1,500,000	補委	文部科学省
IVIMイメージングによる化学放射線治療効果・予後予測法確立	畠中 正光	放射線診断学	1,300,000	補委	文部科学省
介護家族と介護職における主観的ウェルビーイングの向上をめざす心理介入的アプローチ	本間 真理	リハビリテーション医学講座	200,000	補委	北翔大学
三重特異性抗体を用いた多発性骨髄腫に対する新領域抗体療法の開発	石田 禎夫	消化器・免疫・リウマチ内科学講座	240,000	補委	東京大学
神経ブロックの効果と解剖学的検討	成松 英智	救急医学講座	50,000	補委	東北大学
がん研究分野の特性等を	篠村 恭久	消化器・免疫・リウマチ内科学講座	5,000,000	補委	東京大学
がん患者の家族から遺族へ-高齢者を対象とした継続的なケアシステムの開発	河西 千秋	神経精神科学講座	84,276	補委	埼玉医科大学
非淋菌性尿道炎に関わる細菌およびウイルスの疫学、治療に関する総括的研究	高橋 聡	泌尿器科学講座	300,000	補委	産業医科大学

特定健診・保健指導におけるメタリックシンドロームの診断・管理のエビデンス創出に関する横断・縦断研究	島本 和明	—	1,100,000	補委	東京大学
IgG4関連疾患の診断基準並びに治療指針の確立を目指した研究	高橋 裕樹	消化器・免疫・リウマチ内科学講座	500,000	補委	京都大学
特定健診・保健指導におけるメタリックシンドロームの診断・管理のエビデンス創出に関する横断・縦断研究	島本 和明	—	1,100,000	補委	東京大学
成人の重症肺炎サーベイランス構築に関する研究	高橋 弘毅	呼吸器・アレルギー内科学講座	600,000	補委	国立感染症研究所
癌幹細胞を制御する転写因子を標的とした難治性乳癌治療法の開発	平田 公一	消化器・総合、乳腺・内分泌外科学講座	3,000,000	補委	東京大学
脳脊髄液減少症の診断・治療法の確立に関する研究	三國 信啓	脳神経外科学講座	350,000	補委	山形大学
標準的治療の確立が望まれる難治性疾患に対する新規治療法の開発	舩森 直哉	泌尿器科学講座	300,000	補委	九州大学
自己免疫性網膜症の発症機序の解明	大黒 浩	眼科学講座	1,400,000	補委	文部科学省
クロトー遺伝子が皮下脂肪織および皮膚創傷治癒に及ぼす影響について	山内 誠	形成外科学	1,000,000	補委	文部科学省
口腔がんに対する新規がんペプチドワクチン療法の基礎的・臨床的研究	宮崎 晃亘	口腔外科学講座	1,200,000	補委	文部科学省
てんかん症例のバルプロン酸誘導多嚢胞性卵巣症候群のエピジェネティクス研究	遠藤 俊明	産科周産期科学	1,400,000	補委	文部科学省
ヒト鼻粘膜におけるロイコトリエンE4受容体—P2Y12受容体の発現と役割	白崎 英明	耳鼻咽喉科学講座	1,200,000	補委	文部科学省
小児咽頭扁桃における抗原提示細胞の機能解析に基づくDDSを介した新たな治療戦略	小笠原 徳子	耳鼻咽喉科学講座	1,400,000	補委	文部科学省
OSASを誘発するBOB1(+)遷移TFH細胞の機能解明と治療への応用	山下 恵司	耳鼻咽喉科学講座	1,300,000	補委	文部科学省
ヒトT(FH)細胞分化モデルによる免疫アレルギー治療の研究	長屋 朋典	耳鼻咽喉科学講座	1,300,000	補委	文部科学省
STn synthaseを標的とした転移性胃癌に対する新規治療法の開発	佐藤 康史	腫瘍・血液内科学講座	1,300,000	補委	文部科学省
EUS—FNAで採取した分枝膵管型IPMNの嚢胞内溶液のプロテオーム解析	林 毅	腫瘍・血液内科学講座	500,000	補委	文部科学省
HHIP KOストローマ細胞を用いたドナー由来リンパ球インビトロ増幅法の開発	井山 諭	腫瘍・血液内科学講座	900,000	補委	文部科学省
ChIPSeqによる多発性骨髄腫に対するBCL9関連新規治療標的分子の網羅的探索	高田 弘一	腫瘍・血液内科学講座	1,200,000	補委	文部科学省
2型糖尿病による左室拡張機能障害の分子機序	神津 英至	循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座	1,500,000	補委	文部科学省
膵星細胞特異的な遺伝子制御による膵再生の促進	太田 盛道	消化器・総合、乳腺・内分泌外科学	1,200,000	補委	文部科学省
膵頭十二指腸切除術後胃排泄遅延の予防・治療を目的とした介入研究	木村 康利	消化器・総合、乳腺・内分泌外科学講座	900,000	補委	文部科学省
肝細胞癌に対する三重特異性ヒト型カイコ抗体を用いた治療法の開発	佐々木 茂	消化器・免疫・リウマチ内科学講座	800,000	補委	文部科学省
消化管間質腫瘍の悪性度を規定する長鎖non-coding RNAの探索	篠村 恭久	消化器・免疫・リウマチ内科学講座	1,400,000	補委	文部科学省
大規模シーケンスによる除菌後胃発癌の分子病態と臨床応用	鈴木 亮	消化器・免疫・リウマチ内科学講座	1,600,000	補委	文部科学省
発達脳に対する虚血および骨髄間葉系幹細胞移植の及ぼす影響の基礎的解析	坂井 拓朗	小児科学講座	1,000,000	補委	文部科学省
神経新生と血小板機能の接点に着目したアルコール関連気分障害の新規診断マーカー開発	石井 貴男	神経精神医学講座	1,200,000	補委	文部科学省
レビー小体型認知症におけるレム睡眠行動障害の診断・治療法の応用	小林 清樹	神経精神医学講座	1,500,000	補委	文部科学省
抗血栓性を有する脱細胞化小口径血管の解析と小口径人工血管への応用	船本 誠一	心臓血管外科学講座	800,000	補委	文部科学省
膝靭帯のバイオメカニクス研究	鈴木 智之	整形外科科学講座	1,400,000	補委	文部科学省
脳脊髄液漏出症における神経放射線画像の解析および診断精度向上への応用	堀田 祥史	脳神経外科学講座	500,000	補委	文部科学省
骨髄幹細胞移植による海綿体神経の保護・再生と勃起機能の温存	高柳 明夫	泌尿器科学講座	1,300,000	補委	文部科学省
尿路感染症に対するサーファクタント蛋白質Aの防御機構の解明と臨床応用	橋本 次朗	泌尿器科学講座	1,600,000	補委	文部科学省
AD患者皮膚における皮膚バリアタンパク・シスタチンAの発現解析	菅 裕司	皮膚科学講座	500,000	補委	文部科学省
早期に臨床応用が可能な放射線増感剤の研究	坂田 耕一	放射線医学講座	1,200,000	補委	文部科学省

大きく不定形な動脈瘤に対する機能温存塞栓術の開発	廣川 直樹	放射線医学講座	1,700,000	補委	文部科学省
塞栓動脈瘤内部の病理組織学的検証および使用コイルの最適化	宇佐見 陽子	放射線医学講座	1,500,000	補委	文部科学省
視床皮質ニューロンのトランスクリプトーム解析による吸入麻酔薬の作用機序の解明	山蔭 道明	麻酔科学講座	3,000,000	補委	文部科学省
内皮グリコカリックスの障害および麻酔薬による保護作用の検討	時永 泰行	麻酔科学講座	1,100,000	補委	文部科学省
エピゲノム網羅関連解析による術後悪心嘔吐の性差の機序解明	早瀬 知	麻酔科学講座	1,000,000	補委	文部科学省
レミゾラムによる炎症性肺疾患の新しい麻酔戦略	岩崎 創史	麻酔科学講座	1,100,000	補委	文部科学省
敗血症病態におけるスガマデクスによる筋弛緩拮抗機序の解明と臨床現場への提言	高橋 和伸	麻酔科学講座	800,000	補委	文部科学省
敗血症性心機能障害に対する亜硝酸塩の心保護作用とその分子機序の解明	川口 亮一	麻酔科学講座	500,000	補委	文部科学省
有機リン中毒性痙攣の危険因子、および各種抗痙攣薬の治療効果の研究	高田 幸昌	麻酔科学講座	1,200,000	補委	文部科学省
外傷性脳損傷者の復職指導に関する研究－「職業の認知的要求尺度」作成の試み－	石合 純夫	リハビリテーション医学講座	700,000	補委	文部科学省
抗IAP抗体スクリーニングアレイを用いた癌診断法の構築	渡邊 直樹	臨床検査医学講座	3,100,000	補委	文部科学省
肺癌における幹細胞複製分子の発現解析と新規治療標的への応用	小林 大介	臨床検査医学講座	900,000	補委	文部科学省
脂質分解酵素による眼内浄化機構の解明	平岡 美紀	眼科学講座	1,100,000	補委	文部科学省
口腔扁平上皮癌に対する新規癌抗原の同定と臨床応用に向けての研究	小林 淳一	口腔外科学講座	1,800,000	補委	文部科学省
抗ウイルス自然免疫応答解析による上気道疾患病態解明と治療戦略個別化の探索	氷見 徹夫	耳鼻咽喉科学講座	3,600,000	補委	文部科学省
上皮細胞極性と器官形成シグナル制御による咽頭がん浸潤・転移抑制因子の探索	近藤 敦	耳鼻咽喉科学講座	1,400,000	補委	文部科学省
胃癌のBH3 プロファイリングに基づく新規抗がん剤感受性試験の開発および予後予測	河野 豊	腫瘍・血液内科学講座	2,000,000	補委	文部科学省
末梢血中のフコシル転位酵素mRNA検出による新規膵癌迅速診断法の開発	加藤 淳二	腫瘍・血液内科学講座	2,000,000	補委	文部科学省
心筋細胞のネクロプトーシスにおけるミトコンドリア透過性遷移の役割	三浦 哲嗣	循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座	2,000,000	補委	文部科学省
肝切除術後肝不全予防のための術中ビリオモニタリングによる新規管理法の開発	目黒 誠	消化器・総合、乳腺・内分泌外科学講座	1,300,000	補委	文部科学省
フロートラックビリオシステムによる肝切除術中モニタリングの有用性の検討	目黒 誠	消化器・総合、乳腺・内分泌外科学講座	1,200,000	補委	文部科学省
回復するうつ病治療：治癒阻害因子から解明する脳神経回路網修復促進ストラテジー	橋本 恵理	神経精神医学講座	1,400,000	補委	文部科学省
骨粗鬆症における骨組織内の骨代謝/疼痛関連分子の発現変化と疼痛発生機序の解明	射場 浩介	整形外科科学講座	1,800,000	補委	文部科学省
がん幹細胞特異抗体を用いた悪性膠芽腫に対する分子標的療法の開発	鰐淵 昌彦	脳神経外科学講座	1,400,000	補委	文部科学省
尿路上皮がんにおけるADAMTS1遺伝子の解析および転移予測指標・治療標的の確立	西山 直隆	泌尿器科学講座	1,700,000	補委	文部科学省
亜硝酸塩と新規代用血漿剤を用いた出血性ショックに対する新たな治療戦略の開発	平田 直之	麻酔科学講座	2,900,000	補委	文部科学省
乳がん・子宮がん患者を対象にした「書く」ことでのケア：臨床応用をめぐる横断的研究	本間 真理	リハビリテーション医学講座	100,000	補委	日本女子大学
双極性障害の原因神経回路の解明	鶴飼 渉	神経精神科学講座	4,500,000	補委	理化学研究所
がん研究分野の特性等を	舩森 直哉	泌尿器科学講座	700,000	補委	東京大学
全エクソンシーケンスによる大腸癌の染色体不安定性の原因となる新規遺伝子の同定	山本英一郎	消化器・免疫・リウマチ内科学講座	100,000	補委	名古屋市立大学
慢性の痛み語りデータベース構築と生活の再構築に関する研究	本間 真理	リハビリテーション医学講座	200,000	補委	東海大学
IgG4関連疾患の病因病態解明と新規治療法確立に関する研究	高橋 裕樹	消化器・免疫・リウマチ内科学講座	1,000,000	補委	京都大学
多発性硬化症生体試料バンクを活用したアジア人特有の遺伝環境因子探索による病態解明	下濱 俊	神経内科学講座	700,000	補委	九州大学
高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のための研究	加谷 光規	整形外科科学講座	550,000	補委	九州大学
小児期のウイルス性肝炎の病態解明や科学的根拠の集積等に関する研究	津川 毅	臨床研修センター	500,000	補委	大阪府立急性期・総合医療センター

てんかんに対する総合的な医療の提供体制整備に関する研究	三國 信啓	脳神経外科学講座	350,000	補 委	国立精神・神経医療研究センター
平成26年度子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)	遠藤 俊明	産婦人科学講座	260,870	補 委	北海道大学
平成26年度医工連携事業化推進事業「在宅排尿機能検査の基盤になる携帯式尿流量率計の市場化開発事業」	舛森 直哉	泌尿器科学講座	1,600,875	補 委	奈良県立医科大学
びまん性肺疾患に対するエビデンスを構築する新規戦略的研究	高橋 弘毅	呼吸器・アレルギー内科学講座	500,000	補 委	東邦大学
シャルコー・マリー・トゥース病の診療向上に関するエビデンスを構築する研究	山下 敏彦	整形外科科学講座	1,000,000	補 委	京都府立医科大学
下痢症ウイルスの分子疫学と感染制御に関する研究	津川 毅	臨床研修センター	1,000,000	補 委	国立感染症研究所
重症好酸球性副鼻腔炎に対する新しい治療戦略	氷見 徹夫	耳鼻咽喉科学講座	700,000	補 委	福井大学
認知症に対する総合的なリハビリテーションシステムの構築に関する研究	石合 純夫	リハビリテーション医学講座	500,000	補 委	国立長寿医療センター
K-ras 変異がんに対するGST- π を標的とした新規治療法戦略	新津 洋司郎	分子標的探索講座	12,272,728	補 委	文部科学省研究振興局

計 146

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Akutsu N, Adachi Y, Isosaka M, Mita H, Takagi H, Sasaki S, Yamamoto H, Arimura Y, Ishii Y, Masumori N, Endo T, Shinomura Y.	消化器・免疫・リウマチ内科	Mediastinal Yolk Sac Tumor Producing Protein Induced by Vitamin K Absence or Antagonist-II.	Intern Med. 2015;54(12):1531- 6. doi: 10.2169/internalme dicine.54.4025. Epub 2015 Jun 15.
2	Akutsu N, Sasaki S, Takagi H, Motoya M, Shitani M, Igarashi M, Hirayama D, Wakasugi H, Yamamoto H, Kaneto H, Yonezawa K.	消化器・免疫・リウマチ内科	Development of hypertension within 2 weeks of initiation of sorafenib for advanced hepatocellular carcinoma is a predictor of efficacy.	Int J Clin Oncol. 2015 Feb;20(1):105-10. doi: 10.1007/s10147- 014-0691-5. Epub 2014 Apr 18.
3	Aoki H, Noshio K, Igarashi H, Ito M, Mitsuhashi K, Naito T, Yamamoto E, Tanuma T, Nomura M, Maguchi H, Shinohara T.	消化器・免疫・リウマチ内科	MicroRNA-31 expression in colorectal serrated pathway progression.	World J Gastroenterol. 2014 Sep 14;20(34):12346-9. doi: 10.3748/wjg.v20.i3 4.12346.
4	Arimura Y, Isshiki H, Hirayama D, Onodera K, Murakami K, Yamashita K, Shinomura Y.	消化器・免疫・リウマチ内科	Polypectomy to eradicate cap polyposis with protein-losing enteropathy.	Am J Gastroenterol. 2014 Oct;109(10):1689- 91. doi: 10.1038/ajg.2014.2 27. No abstract available.
5	Arimura Y, Isshiki H, Onodera K, Nagaishi K, Yamashita K, Sonoda T, Matsumoto T, Takahashi A, Takazoe M, Yamazaki K.	消化器・免疫・リウマチ内科	Characteristics of Japanese inflammatory bowel disease susceptibility loci.	J Gastroenterol. 2014 Aug;49(8):1217-30. doi: 10.1007/s00535- 013-0866-2. Epub 2013 Aug 13. Review.

6	Harada T, Yamamoto E, Yamano HO, Nojima M, Maruyama R, Kumegawa K, Ashida M, Yoshikawa K, Kimura T, Harada E.	消化器・免疫・リウマチ内科	Analysis of DNA methylation in bowel lavage fluid for detection of colorectal cancer.	Cancer Prev Res (Phila). 2014 Oct;7(10):1002-10. doi: 10.1158/1940-6207.CAPR-14-0162. Epub 2014 Aug 19.
7	Hayashi T, Ikeda H, Igarashi T, Maruyama Y, Aoki Y, Nojima M, Ishida T, Shinomura Y.	消化器・免疫・リウマチ内科	Autologous stem cell transplantation for AL amyloidosis: adjustment of melphalan dose by factors including BNP.	Int J Hematol. 2014 Dec;100(6):554-8. doi: 10.1007/s12185-014-1680-1. Epub 2014 Oct 4.
8	Igarashi H, Kurihara H, Mitsuhashi K, Ito M, Okuda H, Kanno S, Naito T, Yoshii S, Takahashi H, Kusumi T, Hasegawa T, Sukawa Y.	消化器・免疫・リウマチ内科	Association of MicroRNA-31-5p with Clinical Efficacy of Anti-EGFR Therapy in Patients with Metastatic Colorectal Cancer.	Ann Surg Oncol. 2015 Aug;22(8):2640-8. doi: 10.1245/s10434-014-4264-7. Epub 2014 Dec 4.
9	Imamura Y, Lochhead P, Yamauchi M, Kuchiba A, Qian ZR, Liao X, Nishihara R, Jung S, Wu K, Nosho K, Wang YE, Peng S, Bass AJ, Haigis	消化器・免疫・リウマチ内科	Analyses of clinicopathological, molecular, and prognostic associations of KRAS codon 61 and codon 146 mutations in colorectal cancer: cohort study and literature review.	Mol Cancer. 2014 May 31;13:135. doi: 10.1186/1476-4598-13-135.
10	Ishiguro K, Hayashi T, Aoki Y, Maruyama Y, Ikeda H, Ishida T, Shinomura Y.	消化器・免疫・リウマチ内科	Allogeneic bone marrow transplantation in a patient with primary hepatic diffuse large B-cell lymphoma that relapsed after autologous stem cell transplantation.	Nihon Shokakibyō Gakkai Zasshi. 2014 Sep;111(9):1798-804.
11	Isosaka M, Niinuma T, Nojima M, Kai M, Yamamoto E, Maruyama R, Nobuoka T, Nishida T, Kanda T, Taguchi T, Hasegawa T, Tokino T, Hirata	消化器・免疫・リウマチ内科	A Screen for Epigenetically Silenced microRNA Genes in Gastrointestinal Stromal Tumors.	PLoS One. 2015;10(7):e0133754. doi: 10.1371/journal.pone.0133754.

12	Ito M, Kanno S, Nosho K, Sukawa Y, Mitsuhashi K, Kurihara H, Igarashi H, Takahashi T, Tachibana M, Takahashi H, Yoshii S.	消化器・免疫・リウマチ内科	Association of Fusobacterium nucleatum with clinical and molecular features in colorectal serrated pathway.	Int J Cancer. 2015 Sep;137(6):1258-68. doi: 10.1002/ijc.29488. Epub 2015 Mar 13.
13	Ito M, Mitsuhashi K, Igarashi H, Nosho K, Naito T, Yoshii S, Takahashi H, Fujita M, Sukawa Y, Yamamoto E, Takahashi T, Adachi Y.	消化器・免疫・リウマチ内科	MicroRNA-31 expression in relation to BRAF mutation, CpG island methylation and colorectal continuum in serrated lesions.	Int J Cancer. 2014 Dec 1;135(11):2507-15. doi: 10.1002/ijc.28920. Epub 2014 Apr 30.
14	Kawakami Y, Yamamoto M, Tabeya T, Yajima H, Shimizu Y, Ishigami K, Matsui M, Suzuki C, Naishiro Y, Takahashi H.	消化器・免疫・リウマチ内科	IgG4-related orbital tumour with eye enucleation--infra-orbital nerve enlargement.	Rheumatology (Oxford). 2014 Apr;53(4):610. doi: 10.1093/rheumatology/ket340. Epub 2013 Nov 15. No abstract available.
15	Mitsuhashi K, Nosho K, Sukawa Y, Matsunaga Y, Ito M, Kurihara H, Kanno S, Igarashi H, Naito T, Adachi Y, Tachibana M, Tanuma T.	消化器・免疫・リウマチ内科	Association of Fusobacterium species in pancreatic cancer tissues with molecular features and prognosis.	Oncotarget. 2015 Mar 30;6(9):7209-20.
16	Nagaishi K, Arimura Y, Fujimiya M.	消化器・免疫・リウマチ内科	Stem cell therapy for inflammatory bowel disease.	J Gastroenterol. 2015 Mar;50(3):280-6. doi: 10.1007/s00535-015-1040-9. Epub 2015 Jan 25.
17	Nagaishi K, Ataka K, Echizen E, Arimura Y, Fujimiya M.	消化器・免疫・リウマチ内科	Mesenchymal stem cell therapy ameliorates diabetic hepatocyte damage in mice by inhibiting infiltration of bone marrow-derived cells.	Hepatology. 2014 May;59(5):1816-29. doi: 10.1002/hep.26975. Epub 2014 Apr 1.

18	Naito T, Noshok, Ito M, Igarashi H, Mitsuhashi K, Yoshii S, Aoki H, Nomura M, Sukawa Y, Yamamoto E, Adachi Y, Takahashi H.	消化器・免疫・リウマチ内科	IGF2 differentially methylated region hypomethylation in relation to pathological and molecular features of serrated lesions.	World J Gastroenterol. 2014 Aug 7;20(29):10050-61. doi: 10.3748/wjg.v20.i29.10050.
19	Nakagaki S, Arimura Y, Nagaishi K, Isshiki H, Nasuno M, Watanabe S, Idogawa M, Yamashita K, Naishiro Y, Adachi Y, Suzuki	消化器・免疫・リウマチ内科	Contextual niche signals towards colorectal tumor progression by mesenchymal stem cell in the mouse xenograft model.	J Gastroenterol. 2015 Sep;50(9):962-74. doi: 10.1007/s00535-015-1049-0. Epub 2015 Feb 14.
20	Nasuno M, Arimura Y, Nagaishi K, Isshiki H, Onodera K, Nakagaki S, Watanabe S, Idogawa M, Yamashita K, Naishiro Y,	消化器・免疫・リウマチ内科	Mesenchymal stem cells cancel azoxymethane-induced tumor initiation.	Stem Cells. 2014 Apr;32(4):913-25. doi: 10.1002/stem.1594.
21	Noshok, Igarashi H, Ito M, Mitsuhashi K, Kurihara H, Kanno S, Yoshii S, Mikami M, Takahashi H, Kusumi T, Hosokawa M, Sukawa Y,	消化器・免疫・リウマチ内科	Clinicopathological and molecular characteristics of serrated lesions in Japanese elderly patients.	Digestion. 2015;91(1):57-63. doi: 10.1159/000368820. Epub 2015 Jan 20.
22	Noshok, Igarashi H, Nojima M, Ito M, Maruyama R, Yoshii S, Naito T, Sukawa Y, Mikami M, Sumioka W, Yamamoto E, Kurokawa S,	消化器・免疫・リウマチ内科	Association of microRNA-31 with BRAF mutation, colorectal cancer survival and serrated pathway.	Carcinogenesis. 2014 Apr;35(4):776-83. doi: 10.1093/carcin/bgt374. Epub 2013 Nov 15.
23	Shinomura Y.	消化器・免疫・リウマチ内科	Preface. Recent advances in the diagnosis and treatment of gastrointestinal diseases.	Digestion. 2015;91(1):5-6. doi: 10.1159/000369281. Epub 2015 Jan 20. No abstract available.

24	Suzuki R, Yamamoto E, Nojima M, Maruyama R, Yamano HO, Yoshikawa K, Kimura T, Harada T, Ashida M, Niinuma T, Sato	消化器・免疫・リウマチ内科	Aberrant methylation of microRNA-34b/c is a predictive marker of metachronous gastric cancer risk.	J Gastroenterol. 2014 Jul;49(7):1135-44. doi: 10.1007/s00535-013-0861-7. Epub 2013 Aug 13.
25	Tabeya T, Yamamoto M, Naishiro Y, Ishigami K, Shimizu Y, Yajima H, Suzuki C, Seki N, Takano K, Himi T, Imai K, Takahashi H.	消化器・免疫・リウマチ内科	The role of cytotoxic T cells in IgG4-related dacryoadenitis and sialadenitis, the so-called Mikulicz's disease.	Mod Rheumatol. 2014 Nov;24(6):953-60. doi: 10.3109/14397595.2014.882045. Epub 2014 Mar 4.
26	Takahashi H, Arimura Y, Okahara S, Kodaira J, Hokari K, Tsukagoshi H, Shinomura Y, Hosokawa M.	消化器・免疫・リウマチ内科	A randomized controlled trial of endoscopic steroid injection for prophylaxis of esophageal stenoses after extensive endoscopic submucosal dissection.	BMC Gastroenterol. 2015 Jan 22;15:1. doi: 10.1186/s12876-014-0226-6.
27	Yamamoto H, Watanabe Y, Maehata T, Morita R, Yoshida Y, Oikawa R, Ishigooka S, Ozawa S, Matsuo Y, Hosoya K.	消化器・免疫・リウマチ内科	An updated review of gastric cancer in the next-generation sequencing era: insights from bench to bedside and vice versa.	World J Gastroenterol. 2014 Apr 14;20(14):3927-37. doi: 10.3748/wjg.v20.i14.3927. Review.
28	Yamamoto M, Hashimoto M, Takahashi H, Shinomura Y.	消化器・免疫・リウマチ内科	IgG4 disease.	J Neuroophthalmol. 2014 Dec;34(4):393-9. doi: 10.1097/WNO.000000000000172.
29	Yamamoto M, Nojima M, Takahashi H, Yokoyama Y, Ishigami K, Yajima H, Shimizu Y, Tabeya T, Matsui M, Suzuki C.	消化器・免疫・リウマチ内科	Identification of relapse predictors in IgG4-related disease using multivariate analysis of clinical data at the first visit and initial treatment.	Rheumatology (Oxford). 2015 Jan;54(1):45-9. doi: 10.1093/rheumatology/keu228. Epub 2014 Jun 6.

30	Yamamoto M, Shimizu Y, Takahashi H, Yajima H, Yokoyama Y, Ishigami K, Tabeya T, Suzuki C, Matsui M, Naishiro Y, Imai K.	消化器・免疫・リウマチ内科	CCAAT/enhancer binding protein ホア (C/EBPホア)(+) M2 macrophages contribute to fibrosis in IgG4-related disease?	Mod Rheumatol. 2015 May;25(3):484-6. doi: 10.3109/14397595.2014.950826. Epub 2014 Sep 2.
31	Yamamoto M, Takahashi H, Shimizu Y, Yajima H, Suzuki C, Naishiro Y, Imai K, Shinomura Y.	消化器・免疫・リウマチ内科	Seasonal allergies and serial changes of serum levels of IgG4 in cases treated with maintenance therapy for IgG4-related disease.	Mod Rheumatol. 2015 Jan 13:1-2. [Epub ahead of print] No abstract available.
32	Yamamoto M, Takahashi H, Shinomura Y.	消化器・免疫・リウマチ内科	Are Sgren's syndrome and IgG4-related disease able to coexist?	Mod Rheumatol. 2014 Aug 13:1-2. [Epub ahead of print] No abstract available.
33	Yamamoto M, Yajima H, Takahashi H, Yokoyama Y, Ishigami K, Shimizu Y, Tabeya T, Suzuki C, Naishiro Y, Takano K.	消化器・免疫・リウマチ内科	Everyday clinical practice in IgG4-related dacryoadenitis and/or sialadenitis: results from the SMART database.	Mod Rheumatol. 2015 Mar;25(2):199-204. doi: 10.3109/14397595.2014.950036. Epub 2014 Aug 27.
34	Yamashita K, Arimura Y, Fukuda K, Onodera K, Murakami K, Isshiki H, Saito M, Shinomura Y.	消化器・免疫・リウマチ内科	Major bleeding after endoscopic biopsy in relation to use of antithrombotics.	Endoscopy. 2014 Jun;46(6):538. doi: 10.1055/s-0034-1365408. Epub 2014 May 28. No abstract available.
35	Yuda S, Hayashi T, Yasui K, Muranaka A, Ohnishi H, Hashimoto A, Ishida T, Tsuchihashi K, Shinomura Y, Watanabe N, Miura T.	消化器・免疫・リウマチ内科	Pericardial Effusion and Multiple Organ Involvement Are Independent Predictors of Mortality in Patients with Systemic Light Chain Amyloidosis.	Intern Med. 2015;54(15):1833-40. doi: 10.2169/internalmedicine.54.3500. Epub 2015 Aug 1.

36	Miki T, Tobisawa T, Sato T, Tanno M, Yano T, Akasaka H, Kuno A, Ogasawara M, Murase H, Saitoh S, Miura T.	Department of Cardiovascular, Renal and Metabolic Medicine, Sapporo Medical University School of Medicine	Does glycemic control reverse dispersion of ventricular repolarization in type 2 diabetes?	Cardiovasc Diabetol 13: 125, 2014.
37	Tanno M, Kuno A, Ishikawa S, Miki T, Kouzu H, Yano T, Murase H, Tobisawa T, Ogasawara M, Horio Y, Miura T.	Department of Cardiovascular, Renal and Metabolic Medicine, Sapporo Medical University School of Medicine	Translocation of glycogen synthase kinase-3 β (GSK-3 β), a trigger of permeability transition, is kinase activity-dependent and mediated by interaction with voltage-dependent anion channel 2 (VDAC2).	J Biol Chem 289: 29285-29296, 2014
38	Sato T, Kobayashi T, Kuno A, Miki T, Tanno M, Kouzu H, Itoh T, Ishikawa S, Kojima T, Miura T, Tohse N.	Department of Cardiovascular, Renal and Metabolic Medicine, Sapporo Medical University School of Medicine	Type 2 diabetes induces subendocardium-predominant reduction in transient outward K^+ current with downregulation of Kv4.2 and KChIP2.	Am J Physiol Heart Circ Physiol 306: H1054-H1065, 2014
39	Sunaga D, Tanno M, Kuno A, Ishikawa S, Ogasawara M, Yano T, Miki T, Miura T.	Department of Cardiovascular, Renal and Metabolic Medicine, Sapporo Medical University School of Medicine	Accelerated recovery of mitochondrial membrane potential by GSK-3 β inactivation affords cardiomyocytes protection from oxidant-induced necrosis.	PLoS One 9: e112529, 2014.
40	Koyama M, Furuhashi M, Ishimura S, Fuseya T, Mita T, Okazaki Y, Yoshida H, Tsuchihashi K, Miura T.	Department of Cardiovascular, Renal and Metabolic Medicine, Sapporo Medical University School of Medicine	Reduction of endoplasmic reticulum stress by 4-phenylbutyric acid prevents the development of hypoxia-induced pulmonary arterial hypertension.	Am J Physiol Heart Circ Physiol 306: H1314-1323, 2014
41	Ishimura S, Furuhashi M, Mita T, Fuseya T, Watanabe Y, Hoshina K, Kokubu N, Inoue K, Yoshida H, Miura T.	Department of Cardiovascular, Renal and Metabolic Medicine, Sapporo Medical University School of Medicine	Reduction of endoplasmic reticulum stress inhibits neointima formation after vascular injury.	Sci Rep 4: 6943, 2014

42	Fuseya T, Furuhashi M, Yuda S, Muranaka A, Kawamukai M, Mita T, Ishimura S, Watanabe Y, Hoshina K, Tanaka M, Ohno K, Akasaka H.	Department of Cardiovascular, Renal and Metabolic Medicine, Sapporo Medical University School of Medicine	Elevation of circulating fatty acid-binding protein 4 is independently associated with left ventricular hypertrophy and diastolic dysfunction in a general population.	Cardiovasc Diabetol 13: 126, 2014
43	Okazaki Y, Furuhashi M, Tanaka M, Mita T, Fuseya T, Ishimura S, Watanabe Y, Hoshina K, Akasaka H, Ohnishi H, Yoshida H.	Department of Cardiovascular, Renal and Metabolic Medicine, Sapporo Medical University School of Medicine	Urinary excretion of fatty acid-binding protein 4 is associated with albuminuria and renal dysfunction.	PLoS ONE 9: e115429, 2014
44	Tanaka M, Furuhashi M, Okazaki Y, Mita T, Fuseya T, Ohno K, Ishimura S, Yoshida H, Miura T.	Department of Cardiovascular, Renal and Metabolic Medicine, Sapporo Medical University School of Medicine	Ectopic expression of fatty acid-binding protein 4 in glomerulus is associated with proteinuria and renal dysfunction.	Nephron Clin Pract 128: 345-351, 2014
45	Akasaka H, Yoshida H, Takizawa H, Hanawa N, Tobisawa T, Tanaka M, Moriwa N, Togashi N, Yamashita T, Kuroda S, Ura Yuda S, Sato Y, Abe K,	Department of Cardiovascular, Renal and Metabolic Medicine, Sapporo Medical University School of Medicine	The impact of elevation of serum uric acid level on the natural history of glomerular filtration rate (GFR) and its sex difference.	Nephrol Dial Transplant 29: 1932-1939, 2014
46	Kawamukai M, Kouzu H, Muranaka A, Kokubu N, Hashimoto A, Tsuchihashi K, Watanabe N, Miura T.	Department of Cardiovascular, Renal and Metabolic Medicine, Sapporo Medical University School of Medicine	Intervendor variability of left ventricular volumes and strains determined by three- dimensional speckle tracking echocardiography.	Echocardiography 31: 597-604, 2014
47	Furuhashi M, Moriwa N, Mita T, Fuseya T, Ishimura S, Ohno K, Shibata S, Tanaka M, Watanabe Y, Akasaka H, Ohnishi H, Yoshida H.	Department of Cardiovascular, Renal and Metabolic Medicine, Sapporo Medical University School of Medicine	Urinary angiotensin-converting enzyme 2 in hypertensive patients may be increased by olmesartan, an angiotensin II receptor blocker	Am J Hypertens 2014 May 18 [Epub ahead of print]

48	Nishida J, Kouzu H, Hashimoto A, Fujito T, Kawamukai M, Mochizuki A, Muranaka A, Kokubu M, Shimoshige S, Yuda S, Hase M, Tsuchihashi K, Mita T,	Department of Cardiovascular, Renal and Metabolic Medicine, Sapporo Medical University School of Medicine	“Ballooning” patterns in takotsubo cardiomyopathy reflect different clinical backgrounds and outcomes: a BOREAS-TCM study.	Heart Vessels 2014 Jul 25 [Epub ahead of print]
49	Furuhashi M, Hiramitsu S, Ishii J, Hoshina K, Ishimura S, Fuseya T, Watanabe Y, Tanaka M, Ohno K, Akasaka H, Ohnishi H,	Department of Cardiovascular, Renal and Metabolic Medicine, Sapporo Medical University School of Medicine	Fatty acid-binding protein 4 is secreted from adipocytes by adenylyl cyclase-PKA- and guanylyl cyclase-PKG-dependent lipolytic mechanisms.	Obesity 2014 Dec 17. [Epub ahead of print]
50	Furuhashi M, Saitoh S, Shimamoto K, Miura T.	Department of Cardiovascular, Renal and Metabolic Medicine, Sapporo Medical University School of Medicine	Fatty acid-binding protein 4 (FABP4): pathophysiological insights and potent clinical biomarker of metabolic and cardiovascular diseases.	Clin Med Insights Cardiol 8(S3): 23-33, 2014
51	Miura T.	Department of Cardiovascular, Renal and Metabolic Medicine, Sapporo Medical University School of Medicine	HASF, a PKC- ϵ activator with novel features for cardiomyocyte protection. [Editorial]	J Mol Cell Cardiol 69: 1-3, 2014
52	Kouzu H, Miki T, Mizuno M, Kimura Y, Muranaka A, Yuda S, Keira Y, Hasegawa T, Miyaki Y, Takagi N, Higami T, Miura T.	Department of Cardiovascular, Renal and Metabolic Medicine, Sapporo Medical University School of Medicine	Inflammatory myofibroblastic tumor of the heart: overlapping with IgG4-related disease?	Circ J 78: 1006-1008, 2014
53	Yano T, Ishimura S, Furukawa T, Koyama M, Tanaka M, Shimoshige S, Hashimoto A, Miura T.	Department of Cardiovascular, Renal and Metabolic Medicine, Sapporo Medical University School of Medicine	Cardiac tamponade leading to the diagnosis of eosinophilic granulomatosis with polyangiitis (Churg-Strauss syndrome): a case report and review of the literature.	Heart Vessels 2014 Jul 29 [Epub ahead of print]

54	山田 玄 他	呼吸器・アレルギー内科学 講座	In vivo Observation of Lung Cancer Cells on Endobronchial Lesions using an Endocytoscopy	J Cancer Biol Res
55	錦織 博貴 他	呼吸器・アレルギー内科学 講座	Distinct compartmentalization of SP-A and SP-D in the vasculature and lungs of patients with idiopathic pulmonary fibrosis.	BMC Pulm Med
56	夏井坂 元基 他	呼吸器・アレルギー内科学 講座	Epidemiologic survey of Japanese patients with idiopathic pulmonary fibrosis and investigation of ethnic differences.	Am J Respir Crit Care Med
57	Toshifumi Hoki, Koji Miyanishi, Shingo Tanaka, Kohichi Takada, Yutaka Kawano, Akira Sakurada, Masanori Sato, Tomohiro Kubo, Tsutomu Sato, Yasushi Sato,	Department of Medical Oncology and Hematology, Sapporo Medical University School of Medicine, Sapporo 060- 8543, Japan	Increased Duodenal Iron Absorption Through Up-Regulation of Divalent Metal Transporter 1 From Enhancement of Iron Regulatory Protein 1 Activity in Patients With Nonalcoholic Steatohepatitis	HEPATOLOGY 2015 in press
58	Yasuo Hirayama ・ Kunihiro Ishitani ・ Yasushi Sato ・ Satoshi Iyama ・ Kohichi Takada ・ Kazuyuki Murase ・ Hiroyuki Kuroda ・ Yasuhiro	Y. Hirayama ・ T. Terui ・ T. Kusakabe Department of Hematology Oncology, Higashi Sapporo Hospital, Higashi Sapporo, Shiroishi- ku, Sapporo 003-8585, Japan K. Ishitani ・ K. Koike Division of Palliative Care,	Effect of duloxetine in Japanese patients with chemotherapy-induced peripheral neuropathy: a pilot randomized trial	Int J Clin Oncol 2015 in press
59	Koji Miyanishi, Toshifumi Hoki, Shingo Tanaka, Junji Kato	Koji Miyanishi, Toshifumi Hoki, Shingo Tanaka, Junji Kato, Department of Medical Oncology and Hematology, Sapporo Medical University School of Medicine, Sapporo 060- 8543, Japan	Prevention of hepatocellular carcinoma: Focusing on antioxidant therapy	World J Hepatol 2015 March 27; 7(3): 593-599

60	Yasushi Sato · Hiroyuki Ohnuma · Masahiro Hirakawa · Minoru Takahashi · Takahiro Osuga · Yutaka Okagawa ·	Y. Sato · H. Ohnuma · M. Hirakawa · T. Osuga · Y. Okagawa · K. Murase · K. Takada · Y. Kawano · S. Iyama · T. Hayashi · T. Sato · K. Miyanishi · R. Takimoto · M. Kobune · J. Kato Department of Medical	A dose-escalation study of oxaliplatin/capecitabine/irinotecan (XELOXIRI) and bevacizumab as a first-line therapy for patients with metastatic colorectal cancer	Cancer Chemother Pharmacol 2015 Mar;75(3):587-94
61	Hirotoishi Ishiwatari, MD, PhD,1 Tsuyoshi Hayashi, MD, PhD,1 Makoto Yoshida, MD, PhD,1 Michihiro Ono, MD,1 Tsutomu Sato, MD, PhD,1	Department of Medical Oncology and Hematology, Sapporo Medical University, Sapporo (1), Department of Hospital Pharmacy, Sapporo Medical University, Sapporo (2), Department of Public Health, Sapporo Medical University, Sapporo	EUS-guided celiac plexus neurolysis by using highly viscous phenol-glycerol as a neurolytic agent (with video)	GASTROINTESTINAL ENDOSCOPY 2015 Volume 81, No. 2 : 479-483
62	Hirotoishi Ishiwatari · Tsuyoshi Hayashi · Makoto Yoshida · Michihiro Ono · Tsutomu Sato · Koji Miyanishi · Yasushi Sato · Rishu Takimoto ·	H. Ishiwatari · T. Hayashi · M. Yoshida · M. Ono · T. Sato · K. Miyanishi · Y. Sato · R. Takimoto · M. Kobune · J. Kato Department of Medical Oncology and Hematology, Sapporo Medical University School	Phase I trial of oral S-1 combined with hepatic arterial infusion of gemcitabine in unresectable biliary tract cancer	Cancer Chemother Pharmacol (2015) 75:805-812
63	Fumito Tamura · Yasushi Sato · Masahiro Hirakawa · Makoto Yoshida · Michihiro Ono · Takahiro Osuga · Yutaka Okagawa · Naoki Uemura · Yohei Arihara ·	F. Tamura Y. Sato M. Hirakawa M. Yoshida M. Ono T. Osuga Y. Okagawa N. Uemura Y. Arihara K. Murase Y. Kawano S. Iyama K. Takada T. Hayashi T. Sato K. Miyanishi M. Kobune R. Takimoto J. Kato	RNAi-mediated gene silencing of ST6GalNAc I suppresses the metastatic potential in gastric cancer cells	Gastric Cancer 2014 in press
64	Yasuo Hirayama · Kunihiro Ishitani · Shuithi Ota · Mitsutoshi Kurosawa · Takeshi Kondo · Rishu Takimoto · Akio Mori · Hajime Sakai · Yoshihiro	Y. Hirayama Department of Hematology Oncology, Higashi Sapporo Hospital, Sapporo, Japan K. Ishitani Division of Palliative Care, Higashi Sapporo Hospital, Sapporo, Japan S. Ota M. Kurosawa T. Kondo R. Takimoto A.	Long-term survey of survival time, histological transformation, and secondary malignancies in Japanese patients with advanced-stage follicular lymphoma in the rituximab era: Hokkaido Hematology Study Group	Int J Hematol (2014) 100:281-289
65	Takeshi Terui, MD, PhD1† Kazuhiko Koike, MD, PhD2 Yasuo Hirayama, MD, PhD1 Toshiro Kusakabe, MD, PhD1 Kaoru Ono,	1Department of internal medicine, Higashi Sapporo Hospital, Sapporo, Japan 2Department of palliative medicine, Higashi Sapporo Hospital, Sapporo, Japan 3Department of medical oncology and hematology, Sapporo Medical University, School of Medicine,	Recent advances in palliative cancer care at a regional hospital in Japan.	Am J Hosp Palliat Care. 2014 Nov;31(7):717-22

66	Toshiro Sakai · Kyuhei Kohda · Yuichi Konuma · Yasuko Hiraoka · Yukari Ichikawa · Kaoru Ono · Hiroto Horiguchi · Ayumi Tatekoshi · Kouichi Takada ·	T. Sakai K. Kohda Y. Konuma Department of Hematology and Oncology, Asahikawa Red Cross Hospital, 1-1 Akebono-cho, Asahikawa, Hokkaido, Japan Y. Hiraoka Y. Ichikawa Department of Infection	A role for peripherally inserted central venous catheters in the prevention of catheter-related blood stream infections in patients with hematological malignancies	Int J Hematol (2014) 100:592- 598
67	Satoshi Iyamaa, b Tsutomu Satoa Hiroomi Tatsumib, c Akari Hashimotoa Ayumi Tatekoshia Yusuke Kamiharaa	aDepartment of Medical Oncology and Hematology, bNutritional Support Team, cDepartment of Traumatology and Critical Care Medicine, Intensive Care Unit, and dDepartment of Surgery, Surgical Oncology and Science, Sapporo Medical	Efficacy of Enteral Supplementation Enriched with Glutamine, Fiber, and Oligosaccharide on Mucosal Injury following Hematopoietic Stem Cell Transplantation	Case Rep Oncol 2014;7:692-699
68	Hiroto Ishiwatari, Tsuyoshi Hayashi, Makoto Yoshida, Michihiro Ono, Hiroyuki Masuko, Tsutomu Sato, Koji Mivanishi,	Hiroto Ishiwatari, Tsuyoshi Hayashi, Makoto Yoshida, Michihiro Ono, Tsutomu Sato, Koji Miyaniishi, Yasushi Sato, Rishu Takimoto, Masayoshi Kobune, Junji Kato, Department of Medical Oncology and	Phenol-based endoscopic ultrasound- guided celiac plexus neurolysis for East Asian alcohol- intolerant upper gastrointestinal cancer patients: A pilot study	World J Gastroenterol (2014)20(30): 10512-10517
69	Hiroto Horiguchia, d Kohichi Takadaa Yusuke Kamiharaa Soushi Ibataa Satoshi Iyamaa Tsutomu Satoa Tsuyoshi Hayashia Koji	Departments of aMedical Oncology and Hematology, bUrological Surgery and Andrology, and cSurgical Pathology, Sapporo Medical University School of Medicine, and dDepartment of Internal Medicine, Higashi Sapporo Hospital, Sapporo, Japan	Radiation-Induced Leiomyosarcoma of the Prostate after Brachytherapy for Prostatic Adenocarcinoma	Case Rep Oncol 2014;7:565-570
70	Akari Hashimotoa Kohichi Takadaa Hiroto Horiguchia Tsutomu Satoa Satoshi Iyamaa Kazuyuki Murasea Yusuke Kamiharaa Kaoru	Departments of aMedical Oncology and Hematology and bSurgical Oncology and Science, Sapporo Medical University School of Medicine, Sapporo, Japan	Combination Chemotherapy of Azacitidine and Cetuximab for Therapy-Related Acute Myeloid Leukemia following Oxaliplatin for Metastatic Colorectal Cancer	Case Rep Oncol 2014;7:316-322
71	Akihito Fujimi · Yusuke Kamihara · Yuji Kanisawa · Akari Hashimoto · Chisa Nakajima · Naotaka Hayasaka · Naoki Uemura · Toshinori Okuda	A. Fujimi Y. Kamihara Y. Kanisawa A. Hashimoto Department of Hematology and Oncology, Oji General Hospital, 3-4-8 Wakakusa-Cho, Tomakomai 053-8506, Japan C. Nakajima N. Hayasaka N. Uemura T. Okuda S.	Anti-erythropoietin receptor antibody- associated pure red cell aplasia accompanied by Coombs-negative autoimmune hemolytic anemia in a patient with T cell/histiocyte- rich large B cell lymphoma	Int J Hematol (2014) 100:490- 493

72	久原 真	神経内科	Long-term clinical and radiological improvement of chronic acquired hepatocerebral degeneration after obliteration of portosystemic shunt: report of a case	J Neurol Sci, 346(1-2), 303-6, 2014
73	松村晃寛	神経内科	Temporal Changes of CD68 and $\alpha 7$ Nicotinic Acetylcholine Receptor Expression in Microglia in Alzheimer's Disease-Like Mouse Models.	J Alzheimers Dis. 44(2), 409-423, 2015
74	鈴木秀一郎	神経内科	Intravenous mesenchymal stem cell administration exhibits therapeutic effects against 6-hydroxydopamine-induced dopaminergic neurodegeneration and glial activation in rats.	Neurosci Lett., 2015, 584, 276-281
75	久原 真	神経内科	A Heterozygous Missense Mutation in Adolescent-Onset Very Long-Chain Acyl-CoA Dehydrogenase Deficiency with Exercise-Induced Rhabdomyolysis	Tohoku J Exp Med, 235 (4), 305-310, 2015
76	岩原直敏	神経内科	A novel lamin A/C gene mutation causing spinal muscular atrophy phenotype with cardiac involvement: report of one case.	BMC Neurol. 2015 Feb 20
77	松村晃寛	神経内科	Evaluation of oxidative stress in the brain of a transgenic mouse model of Alzheimer disease by in vivo electron paramagnetic resonance imaging.	Free Radic Biol Med. 2015 Aug;85:165-73.

78	(川又 純)	神経内科	Are multifocal motor neuropathy patients underdiagnosed? An epidemiological survey in Japan.	Muscle Nerve. 2014 Mar;49(3):357-61
79	(川又 純)	神経内科	Immunoreactivity of valosin-containing protein in sporadic amyotrophic lateral sclerosis and in a case of its novel mutant.	Acta Neuropathol Commun. 2014 Dec 10;2:172.
80	(川又 純)	神経内科	Long-term follow-up of cortical hyperexcitability in Japanese Unverricht-Lundborg disease.	Seizure. 2014 Oct;23(9):746-50
81	横川和樹	神経内科	A case of dural arteriovenous fistula of right cavernous sinus presenting bilateral eye symptoms	Rinsho Shinkeigaku. 2015 Sep 19.
82	松村晃寛	神経内科	Evaluation of oxidative stress in the brain of a transgenic mouse model of Alzheimer disease by in vivo electron paramagnetic resonance imaging.	Free Radic Biol Med. 2015 Aug;85:165-73
83	岩原直敏	神経内科	A novel lamin A/C gene mutation causing spinal muscular atrophy phenotype with cardiac involvement: report of one case.	BMC Neurol. 2015 Feb 20;15:13.

84	下濱 俊	神経内科	Current concepts regarding cortical dementia.	Brain Nerve. 2015 Apr;67(4):389-402
85	久原 真	神経内科	A heterozygous missense mutation in adolescent-onset very long-chain acyl-CoA dehydrogenase deficiency with exercise-induced rhabdomyolysis.	Tohoku J Exp Med. 2015;235(4):305-10.
86	山本大輔	神経内科	A case of atypical Tolosa-Hunt syndrome with a contrast enhanced lesion of the oculomotor and trigeminal nerves on MRI	Rinsho Shinkeigaku. 2014;54(11):903-6.
87	山内理香	神経内科	Respiratory insufficiency with preserved diaphragmatic function in amyotrophic lateral sclerosis.	Intern Med. 2014;53(12):1325-31. Epub 2014 Jun 15.
88	Mayuko Uehara	心臓血管外科	New parameter of the right gastroepiploic arterial graft using the power spectral analysis device named MemCalc soft.	Eur J Cardiothorac Surg. 2015 Mar 31. pii: ezv100
89	Kazutoshi Tachibana	心臓血管外科	Impact of novel intraoperative evaluation for mitral valve regurgitation: the retrograde cardio-protective beating test.	Surg Today. 2015 Sep;45(9):1153-9. doi: 10.1007/s00595-014-1062-6. Epub 2014 Nov 1.

90	Oki G	整形外科	Time to functional recovery after arthroscopic surgery for tennis elbow.	J Shoulder Elbow Surg 23: 1527-1531, 2014.
91	Kaya M	整形外科	Ligamentum Teres Injury Is Associated With the Articular Damage Pattern in Patients With Femoroacetabular Impingement.	Arthroscopy 30: 1582-1587, 2014.
92	Tsukahara T	整形外科	Specific targeting of a naturally presented osteosarcoma antigen PBF peptide using an artificial monoclonal antibody.	J Biol Chem 289: 22035-22046, 2014.
93	Teramoto A	整形外科	Subtalar Joint Stress Imaging With Tomosynthesis.	Foot Ankle Spec 7: 182-184, 2014.
94	Suzuki T	整形外科	Biomechanical Comparison between the Anatomical Rectangular Tunnel and the Isometric Round Tunnel ACL Reconstruction Procedures with a Bone-patella tendon Bone Graft.	Arthroscopy 30: 1294-1302, 2014.
95	Ogon I	整形外科	Analysis of chronic low back pain with magnetic resonance imaging T2 mapping of lumbar intervertebral disc.	J Orthop Sci. DOI: 10.1007/s00776-014-0686-0

96	Yoshimoto M	整形外科	Microendoscopy assisted muscle-preserving interlaminar decompression for lumbar spinal stenosis, clinical results of consecutive 105 cases with more than three-year follow-up.	Spine 39: 318-325, 2014.
97	Yoshimoto M	整形外科	Microendoscopic discectomy for far lateral lumbar disc herniation; less surgical invasiveness and minimum two-year follow-up results.	J Spinal Disord Tech 27: 1-7, 2014.
98	Mikami T	札幌医科大学脳神経外科	Predictive factors for epilepsy in moyamoya disease.	J Stroke Cerebrovasc Dis 24(1):17-23, 2015
99	Enatsu R	札幌医科大学脳神経外科	Connections of the limbic network: A corticocortical evoked potentials study.	Cortex 62:20-33, 2015
100	Hida T, Okura M, Tanaka T, Yamashita T	Department of Dermatology, Sapporo Medical University School of Medicine	A case of oculocutaneous albinism type 4: aberrant expression of SLC45A2 transcript with exon skipping.	J Dermatol 41: 1019-1021, 2014.
101	Hida T, Kase K, Hamada T, Matsuda M, Hashimoto T, Yamashita T	Department of Dermatology, Sapporo Medical University School of Medicine. Department of Dermatology, Kurume University School of Medicine	Ankyloblepharon-ectodermal defects-cleft lip/palate syndrome: a case with a novel p63 mutation associated with abnormal keratohyalin granules.	Eur J Dermatol 24: 495-497, 2014.

102	Hida T, Yamashita T	Department of Dermatology, Sapporo Medical University School of Medicine	Pigmented mammary Paget's disease presenting with dermoscopic features of multiple dots.	Australas J Dermatol 55: 260- 262, 2014.
103	Hikage S, Ono I, Yamashita T, Kimura T	Department of Dermatology, Sapporo Medical University School of Medicine	Three cases of reconstruction with a simply designed bilobed flap after excision of squamous cell carcinomas of the lateral eyebrow areas.	J Dermatol 41: 399-402, 2014.
104	Kitamura H, Maeda T	泌尿器科学講座	Comparison of laparoscopic, hand- assisted, and open surgical nephroureterectomy	Jounal of the Society of Laparoendoscopic Surgeons 18; 288- 293, 2014.
105	Muranaka T, Takahashi S	泌尿器科学講座	Urethral polyp-like lesions on prostatic urethra caused by <i>Chlamydia trachomatis</i> <i>infection</i> : A case report	Journal of Infection and Chemotherapy 20; 726-728, 2014.
106	Nishiyama N, Kitamura H	泌尿器科学講座	Construction of predictive models for cancer-specific survival of patients with non-muscle-invasive bladder cancer treated with bacillus calmette-guerin: Results from a multicenter retrospective study	Japanese Journal Clinical Oncology 44; 1101-1108, 2014.
107	Takeuchi M, Masumori N	泌尿器科学講座	Ureteral reconstruction with bowel segments: Experience with eight patients in a single institute	Korean Journal of Urology 55; 742- 749, 2014.

108	Hashimoto K, Kyoda	泌尿器科学講座	The potential of neurotensin secreted from neuroendocrine tumor cells to promote gelsolin-mediated invasiveness prostate adenocarcinoma cells	Laboratory Investigation 2015, 1-13.
109	Fukuta F Kitamura H	泌尿器科学講座	Efficacy and safety of docetaxel and prednisolone for castration-resistant prostate cancer: a multi-institutional retrospective study in Japan	Japanese Journal Clinical Oncology 45; 682-687, 2015.
110	黒瀬誠	耳鼻咽喉科学講座	Tracheo-innominate artery fistula with severe motor and intellectual disability: incidence and therapeutic management.	Int J Periatr Otorhinolaryngol.
111	亀倉隆太	耳鼻咽喉科学講座およびフロンティア医学研究所免疫制御医学部門	Loss of the desmosomal cadherin desmoglein-2 suppresses colon cancer cell proliferation through EGFR signaling.	Oncogene.
112	野村一頭	耳鼻咽喉科学講座	Pseudomonas aeruginosa elastase causes transient disruption of tight junctions and downregulation of PAR-2 in human nasal epithelial cells.	Respir Res.
113	實川純人	耳鼻咽喉科学講座およびフロンティア医学研究所免疫制御医学部門	A case of chondrosarcoma of the temporal bone.	EDOEIUM Journals Otolaryngol.

114	染谷 正則	放射線治療科	Results and DVH analysis of late rectal bleeding in patients treated with 3D-CRT or IMRT for localized prostate cancer.	J Radiat Res, 2015;56(1);115:122-127.
115	染谷 正則	放射線治療科	Relation between Ku80 and microRNA-99a expression and late rectal bleeding after radiotherapy.	Radiother Oncol, 2015(2);115:235-239.
116	MasudaY,TatsumiH,ImaizumiH,GotohK,YoshidaS-I,ChiharaS,TakahashiK,YamakageM	麻酔科学講座	Effect of prone positioning on cannula function and impaired oxygenation during extracorporeal circulation	J Artif Organs.2014;17:106-9
117	MasudaY,TatsumiH,GotoK,ImaizumiH,YoshidaS-I,KimijimaT,YamakageM.	麻酔科学講座	Treatment of life-threatening hypercapnea with inhalation anesthetics in an infant with status asthmaticus.	J Anesth.2014;28:610-2
118	Edanaga M,HayashiH,Yamakage M.	麻酔科学講座	Usefulness of Flotrac/Vigileo combined with transesophageal echocardiography under abdominal hysterectomy for a patient complicated with moyamoya disease and hypertrophic cardiomyopathy	Anesthesia and Resuscitation. 2013;49:101-3.
119	HayaseT,Sugino S,TachibanaT,HirataN,Yamakage M	麻酔科学講座	Improvement of Generic Sevoflurane by a New Production Process	Lett Drug Des Discov.2014;11:495-501.

120	SawadaA,NiiyamaY,AtakaK,NagashiK,YamakageM,FujimiyaM	麻醉科学講座	Suppression of bone marrow-derived microglia in the amygdala improves the anxiety-like behavior induced by chronic partial sciatic nerve ligation in mice	Pain.2014;155:1762-72
121	TachibanaN,NiiyamaY,YamakageM	麻醉科学講座	Propofol target controlled infusion in obese Japanese patients:Evaluation of bias for predicted and measured concentrations. An open-label comparative study	Eur J Anaesthesiol.2014;31:701-7
122	TachibanaN,NiiyamaY,YamakageM	麻醉科学講座	Incidence of cannot intubate-cannot ventilate (CICV):results of a 3-year retrospective multicenter clinical study in a network of university hospitals	J Anesth.2014;[Epub aheadofprint]
123	MiyashitaR,HirataN,SuginoS,MimuraM,YamakageM	麻醉科学講座	Improved non-invasive total hemoglobin measurements after in vivo adjustment program	Anaesthesia 2014;69:752-6
124	KiiN,YamauchiM,TakahashiK,YamakageM,WadaT	麻醉科学講座	Differential axillary nerve block for hand or forearm soft-tissue surgery	J Anesth.2014;28:549-53
125	MizukamiN,YamauchiM,KoikeK,WatanabeA,IchiharaK,MasumoriN,YamakageM	麻醉科学講座	Olanzapine for the prevention of chemotherapy-induced nausea and vomiting in patients receiving highly or moderately emetogenic chemotherapy:a randomized,double-blinded placebo-controlled study	J Pain Symptom Manag.2014;47:542-50

126	GiE,YamauchiM, YamakageM,Kiku chiC,ShimizuH, OkadaY,Kawamu raS,SuzukiT	麻醉科学講座	Effects of local infiltration analgesia for posterior knee pain after total knee arthroplasty: comparison with sciatic nerve block	J Anesth.2014;28:69 6-701
127	MaruyamaD,Eda nagaM,Yamakage M	麻醉科学講座	The broncoscopy model LM-092 has educational benefits	J Anesth.2014;28:31 4
128	MaruyamaD,Hira taN,YamakageM	麻醉科学講座	Dealing with a broken bottle of desflurane	J Anesth.2014;28:32 2.
129	MaruyamaD,Cha kiT,OmoteM,Hir ataN,YamauchiM ,YamakageM	麻醉科学講座	Movements of the double-lumen endotracheal tube due to lateral position with head rotation and tube fixation: aThiel-embalmed cadaver study	Surg Radiol Anat.2014
130	ZhouJ,IwasakiS, YamakageM	麻醉科学講座	Phosphodiesterase 4 inhibitor roflumilast improves the bronchodilative effect of sevoflurane insensitized airways	Anesthesiology 2014;120:1152
131	KimuraY,Kimura S,SumitaS,Yamak ageM	麻醉科学講座	Predictors of hypofibrinogenemia in blunt trauma patients on admission	J Anesth.2014.Aug.1 2

132	OtaK,IwasakiS	麻醉科学講座	Vertebral bone drilling (puncture) attenuates the acute pain due to vertebral compression fractures	Open Journal of Anesthesiology2014 ;4:46-9
133	Kei Miyata	救急医学講座	Skull Base Penetration Due to Cervical Impalement Injury: A Case Report and Review of the Literature	
134	Keigo Sawamoto	救急医学講座	Outcome from severe accidental hypothermia with cardiac arrest resuscitated with extracorporeal cardiopulmonary resuscitation	
135	小林 淳一、宮崎晃亘、平塚博義	口腔外科学講座	Spontaneous complete remission of methotrexate-associated extranodal B-cell lymphoma of the buccal mucosa: Review of the literature and report of a case	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology 27: 677-681:2015
136	杉田真太郎	病理部	Diagnostic utility of NCOA2 fluorescence in situ hybridization and STAT6 immunohistochemistry for soft tissue angiofibroma and morphologically similar fibrovascular tumors.	Hum Pathol 2014;45:1588-1596.
137	杉田真太郎	病理部	A novel CIC-FOXO4 gene fusion in undifferentiated small round cell sarcoma. A genetically distinct variant of Ewing-like sarcoma.	Am J Surg Pathol 2014;38:1571-1576.

138	近藤 崇	検査部	CD7 promotes extramedullary involvement of the B-cell acute lymphoblastic leukemia line Tanoue by enhancing integrin $\beta 2$ -dependent cell adhesiveness	Int J Oncol 2014,45: 1073-1081.
139	高橋 祐輔	検査部	Prophylactic and therapeutic effects Acanthopanax senticosus HARMS extract on murine collagen-induced arthritis.	Phytother Res 2014, 28: 1513-1519.
140	品川 雅明	検査部	Identification of a bacteriolysis - associated virulence factor against lung epithelial cells in Pseudomonas aeruginosa PAO1 cell lysate.	Microb Pathog 2014, 23: 35-40.
141	村井 良精	検査部	Stanniocalcin-1 promotes metastasis in a human breast cancer cell line through activation of PI3K.	Clin Exp Metastasis 2014, 31: 787-794.
142	梅森 祥央	検査部	Protein kinase c zeta regulates survivin expression and resists apoptosis in colon cancer.	Int J Oncol 2014, 45: 1043-1050.
143	蕨澤 慎也	検査部	Significance of serine threonine tyrosine kinase 1 as a drug resistance factor and therapeutic predictor in acute leukemia.	Int J Oncol 2014, 45: 1867-1874.

144	Hiroyuki Takashima	Division of Radiology and Nuclear Medicine	Investigation of Intervertebral Disc and Facet Joint in Lumbar Spondylolisthesis using T2 Mapping	Magnetic Resonance in Medical Sciences
145	Hiroshi Nagahama	Division of Radiology and Nuclear Medicine	Comparison of magnetic resonance imaging sequences for depicting the subthalamic nucleus for deep brain stimulation	Radiology Physics and Technology

計145

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	中田 健生	放射線治療科	子宮全摘術後の膣断端残存-再発腫瘍に対する腔内照射の治療成績。	臨床放射線, 2014; 59(10):1372-1378.
2				
3				
4				
5				
~				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 <u>・ 目的 ・ 構成 ・ 記録 ・ 責務 ・ 業務 ・ 提出書類</u>	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 <u>26</u> —回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 <u>利益相反の対象者 利益相反管理の対象 利益相反管理委員会 利益相反管理の手続 など</u>	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 <u>0</u> —回

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 <u>2</u> —回
・ 研修の主な内容 <u>・ 臨床研究における倫理性の確保について ・ 被験者保護について ・ 臨床研究倫理指針について</u>	

てのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ② 現状
管理責任者氏名	札幌医科大学附属病院病院長 山下 敏彦
管理担当者氏名	総務課長 鶴田 秀人／病院課長 横山 秀視／医事相談センター長 土橋 和文／医療連携センター長 齋藤 豪／薬剤部長 宮本 篤／医療安全部長 土橋 和文／感染制御部長 高橋 聡／経営管理部長 土橋 和文

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		病院課、各診療科、カルテ庫、各診療関係部科	病歴資料については、診療科毎に作成し、カルテ庫で管理（一診療科一カルテ） エックス線写真においては、各診療科とカルテ庫において保管管理
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	
	高度の医療の提供の実績	各診療科	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	各診療科	
	高度の医療の研修の実績	病院課	
	閲覧実績	－	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事相談センター	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	経営管理課及び薬剤部	
第規一則号第一に掲げる十の十一の第一項の各号及び第九の二十第	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全部	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全部	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全部	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全部	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全部	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全部	
	当該病院内に患者か	医事相談セン	

	一 項	らの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	ター	
--	--------	---------------------------	----	--

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則	院内感染のための指針の策定状況	感染制御部
	第一条	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
	第十一条	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
	第一項	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
	各号	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
	及び	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
	第九条	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
	の	医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
	二十三	医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	経営管理課
	第一項	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	経営管理課
	第一号に掲げる体制の確保の状況	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	経営管理課
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	経営管理課

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	② 現状
閲覧責任者氏名	北海道公立大学法人札幌医科大学 理事長 島本 和明	
閲覧担当者氏名	北海道公立大学法人札幌医科大学事務局総務課長 鶴田 秀人	
閲覧の求めに応じる場所	北海道公立大学法人札幌医科大学事務局総務課	
閲覧の手続の概要		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有
<p>・指針の主な内容：</p> <p>○「札幌医科大学附属病院における安全管理指針」 医療の安全管理に関する基本方針を定めるとともに院内の責任体制を明確にし、医療安全管理の具体的な推進方策について 9 項目を規定している。</p> <p>・H26. 12. 10 2-5「医療安全推進部とゼネラルリスクマネージャー」の改正し、部の業務とは別に医療安全管理者の業務内容を明記した。</p> <p>・H27. 4. 1 組織機構改正による改正。</p> <p>1 総則 2 医療安全管理のための組織体制 3 医療の安全確保を目的とした改善のための方策 4 安全管理のための職員研修の実施 5 医療事故発生時の対応方法 6 患者相談窓口の設置 7 安全な医療を提供するためのマニュアル・ガイドライン 8 本指針の閲覧 9 附則</p>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況（平成 2 6 年度）	年 2 8 回
<p>・活動の主な内容：</p> <p>○医療事故防止対策委員会 (定例) 1 2 回 医療事故の原因分析・再発防止策等の検討を実施</p> <p>○安全対策委員会 (定例) 1 2 回 インシデントの原因分析・再発防止策の検討、マニュアル等の検討</p> <p>* 各検討結果を現場へフィードバックし、周知徹底を図っている</p> <p>○リスクマネージャー連絡会議 (定例) 4 回 インシデントの周知徹底を図り、注意喚起した (メール配信 2 8 回 電子メール等による各リスクマネージャーからの問い合わせ又は意見提起、これに対する回答等、双方向の連絡、医療安全情報の配信)</p>	
① 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況（平成 2 6 年度）	年 2 3 回
<p>・研修の主な内容：</p> <p>○全職員を対象とした安全対策研修 年 6 回 (講演会2、医薬品1、トピックス3)</p> <p>○全職員を対象とした BLS・AED 講習会 年 5 回</p> <p>○全職員を対象とした ICLS 講習会 年 1 回</p> <p>○その他医師、看護師・看護助手を対象とした研修会 年 1 1 回 (トピックス研修会7、KYT2、PICC2)</p>	
② 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備： (有)</p> <p>○「医療事故発生・発見時の対応について」(平成 1 4 年 1 1 月 1 日病院長決定)により事故等の区分を 8 段階にレベル分けし、院内報告の仕方や取り扱いを明らかにするとともに、再発防止策の検討方法などを規程している。</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>○医療安全確保のための業務改善計画書に基づく巡回点検の実施 昨年度も各部署において「業務改善計画書」を作成・提出させ、医療安全部長、GRM、医療事故防止対策委員が診療科等を巡回、当該計画書の実施状況を確認の上、状況に応じた指導を行った。今年度においては、昨年から継続して全科に全員参加の形で緊急事態発生時の対応についての取り組みを企画させ、診療科、看護及び中央部門には胸骨圧迫及び AED 装着といった技術の修得と確認を、事務職には胸骨圧迫及び AED 装着といった技術の実施と確認を求めている。シミュレーショントレーニングには、院内急変対応委員会のインストラクターが指導及び評価を行う。さらに、5 S 活動の実施ということで、診療科、看護及び中央部門には 5 S の視点で自部署の職場環境と患者の療養環境の点検を、事務職には院内巡回による危険や改善の必要があると思われるものを察知し、そこへ手を加えることによって安全の先取りとなるような取り組みを企画させている。</p>	

○医療安全推進週間の開催

昨年度も医療安全対策に関し、医療関係者の意識の向上、また、医療機関における組織的取組の促進などを図る目的で開催した。取組内容は、「医療安全講演会」「P I C Cカテーテルハンズオントレーニング～安全なエコー下手技～」 「気づき研修（仮）」 「医療安全大賞」。今年度も医療安全講演会をはじめ、各種企画を実施する予定。

○安全対策委員会において、昨年度、身体抑制マニュアル実施状況調査、手術部位誤認防止調査、侵襲的な検査処置での患者誤認防止実施状況調査、同意書取得状況調査及び安全行動の巡回調査を実施した。今年度の取り組みとしては、例年に引き続き手術部位誤認防止調査、侵襲的な検査処置での患者誤認防止実施状況調査及び院内巡回を行う。また、医療安全対策マニュアルポケット版第6版の発行に向けて内容を精査する。年度末に全職員に配布予定。

○H26. 10 手術関連死に係わる監査について、死亡診断書の定点観測を実施した。

○H27. 1. 13、22 拡大トピックス研修会「針刺し曝露後対応」「膀胱留置カテーテルと尿道損傷」「スライディングスケールの正しい使用法」「中心静脈栄養施行時のインラインフィルター使用について」を開催した。

○H27. 1. 20 車椅子での負傷事案が発生したことを受け、各看護室リスクマネージャーに注意喚起を促すとともに、車椅子のネジカバーの確認を行うよう連絡した。

○H27. 3. 手術関連死に係わる監査について、毎月、医療システムより全死亡例を抽出し、当部において死亡及び進取的な検査・処置の関連を振り分け、カルテレビューを行うこととした。

○H27. 3. 4、5 北海道呼吸管理研究会が共催となり、トピックス研修会「活用しよう！ME T～あなたが気づくことで救われる命がある～」を開催した。

○H27. 4 これまで各病棟で管理していたネブライザーヒーターについて、パッキン部分の接続不良や噴霧不良、また、接続部に錆がある機器も散見されたことから新製品に変更して、ME機器センター管理とした。

⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有（4名）
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有
<ul style="list-style-type: none"> ・所属職員： 専任（ 4 ）名 兼任（ 5 ）名 ・活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ○附属病院における安全対策の総合企画・総合調整 ○事故発生報告書及びインシデントレポートに基づく事故原因の分析及び再発防止策の検討業務 ○再発防止策等について診療科・看護室等のリスクマネージャーを通じて現場への指導 ○再発防止策のマニュアル化及びその周知徹底 ○安全管理に関する最新情報をメール配信及びリスクマネージャー連絡会議、リスクマネジメントニュースの発行を通じて全職員へ周知徹底 	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有

(様式第 6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：「札幌医科大学附属病院院内感染対策指針」 札幌医科大学附属病院における院内感染対策に関する基本事項について、規定したものである。 院内感染対策についての意識の向上に資するものである。</p> <p>1. 院内感染対策に関する基本的考え方 2. 院内感染対策のための管理体制・組織 3. 院内感染対策のための職員研修 4. 感染症の発生状況の報告 5. 院内感染発生時の対応 6. 患者等に対する本指針の閲覧 7. その他の院内感染対策の推進</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 13回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>○院内における感染情報の周知及び分析 ○感染防止の対応報告及び検討・原因究明 ○抗菌薬使用状況 ○コンサルテーション内容の報告</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 21回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>○病院感染対策講習会 3回：全職員を対象とする。 ○清掃委託業者における病院感染対策講習会 2回：清掃委託業者全員を対象とする。 ○研修医への講義 1回：新規採用研修医を対象とする。 ○新規採用看護師への講義 1回：新規採用された看護師全員を対象とする。 ○中途採用者への講義 11回：年度途中に採用された職員全員を対象とする。 ○針刺しなど曝露時対応に関する講義 2回：全職員を対象とする。</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</p> <p>○「感染症発症連絡票」を用いて、患者や職員の感染症発生に関する報告を受けている。 ○検査部からの報告を感染対策ソフトで院内の菌やウイルスの検出状況を把握し、必要に応じて各部署の責任者等へ詳細報告を求めている。</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>○感染制御チームを設置し、院内感染の状況、抗菌薬適正使用、診断に必要な検体採取状況、職員の感染対策実施の状況などを把握し、適宜介入を行っている。 ○定期広報紙を発行し、院内および市中における感染情報や対策などについて注意喚起している。 ○感染制御チームによる病棟ラウンドを実施し、臨床現場の現状把握や改善内容の提案をしている。 ○病院感染対策マニュアルを随時改訂し、電子カルテ端末のSMILEへ掲載し、閲覧しやすくしている。 ○当院における1年間の分離株薬剤感受性率表「アンチバイオグラム」をポケット版で作製し、抗菌薬の適切な選択をしやすくしている。 ○感染防止対策加算1算定医療機関2施設との相互チェックの実施、加算2算定医療機関6施設との合同カンファレンスの開催をし、地域医療機関との連携を図っている。</p>	

(様式第 6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 5 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>○平成26年度トピックス研修会（全4回） 「スライディングスケールの正しい使用法」 講師：第二内科助教 「エビデンスに基づいた医薬品の安全管理・危機管理2015」 講師：医薬品安全管理責任者、薬剤部長</p> <p>○平成26年度医薬品・医療機器安全管理研修会 「医薬品・医療機器の安全管理－最近の事例とその対策－」 講師：医薬品医療機器総合機構 石井健介</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 （有）</p> <p>・ 業務の主な内容：</p> <p>○医薬品の採用・購入、医薬品の管理方法、投薬指示・調剤、患者への与薬や服薬指導、医薬品の安全使用に係る情報の取扱い（収集・提供）、他施設との連携</p> <p>○手順書に基づく業務評価</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （有）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>○ハイリスク薬の管理・取扱い：院内周知及び管理状況の確認</p> <p>○麻薬・向精神薬の適正使用の推進：重複処方等の調査・指導（四半期毎）</p> <p>○がん化学療法：プロトコール申請及びレジメン入力の実施、薬剤部でのミキシング</p> <p>○医薬品医療機器総合機構等からの通知や他施設での事故：該当事例について検討し改善を図る</p> <p>○医薬品の安全使用のための手順書の業務評価に基づく改善策の実施</p>	

(様式第 6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	(有)・無																																				
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 1 2 回																																				
・ 研修の主な内容： ・ 人工心肺装置及び補助循環装置 (2 回) ・ 人工呼吸器 (2 回) ・ 血液浄化装置 (2 回) ・ 除細動器 (2 回) ・ 閉鎖式保育器 (2 回) ・ 診療用高エネルギー放射線発生装置及び診療用放射線照射装置 (2 回)																																					
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況																																					
・ 計画の策定 ((有)・無) ・ 保守点検の主な内容： <table><tr><td>指定機器</td><td></td><td>指定機器以外</td><td></td></tr><tr><td>・ 人工心肺装置及び補助循環装置</td><td>4 件</td><td>・ 在宅療法貸借医療機器</td><td>2 3 件</td></tr><tr><td>・ 人工呼吸器</td><td>3 8 件</td><td>・ その他 (在宅除く)</td><td>3 5 件</td></tr><tr><td>・ 血液浄化装置</td><td>1 3 件</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ 除細動装置 (A E D を除く)</td><td>1 8 件</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ 閉鎖式保育器</td><td>1 0 件</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ 診療用高エネルギー放射線発生装置</td><td>3 件</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ 診療用放射線照射装置</td><td>1 件</td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td>合計</td><td>1 4 5 件</td></tr></table>		指定機器		指定機器以外		・ 人工心肺装置及び補助循環装置	4 件	・ 在宅療法貸借医療機器	2 3 件	・ 人工呼吸器	3 8 件	・ その他 (在宅除く)	3 5 件	・ 血液浄化装置	1 3 件			・ 除細動装置 (A E D を除く)	1 8 件			・ 閉鎖式保育器	1 0 件			・ 診療用高エネルギー放射線発生装置	3 件			・ 診療用放射線照射装置	1 件					合計	1 4 5 件
指定機器		指定機器以外																																			
・ 人工心肺装置及び補助循環装置	4 件	・ 在宅療法貸借医療機器	2 3 件																																		
・ 人工呼吸器	3 8 件	・ その他 (在宅除く)	3 5 件																																		
・ 血液浄化装置	1 3 件																																				
・ 除細動装置 (A E D を除く)	1 8 件																																				
・ 閉鎖式保育器	1 0 件																																				
・ 診療用高エネルギー放射線発生装置	3 件																																				
・ 診療用放射線照射装置	1 件																																				
		合計	1 4 5 件																																		
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況																																					
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ((有)・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 「医療機器安全対策実施要領」に基づき対応してきている。																																					

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 機関：公益財団法人 日本医療機能評価機構 時期：平成 26 年 5 月 27 日、28 日	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 情報発信の方法：広報誌、ウェブサイト 内容等の概要：本院の役割や診療機能、医療技術など	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
緩和ケア診療、女性外来	